

---

## 編集後記

---

会員の皆様には、いよいよお元気でご活躍のことと存じます。編集に追われる現在（7月上旬）は、梅雨とは名ばかりで連日猛暑が続いております。本誌が皆様のお手元に届く頃は涼しくなっていることと思います（それとも残暑？）。

皆様の施設にも今春に Dr, Nrs, Tc の新人が配属され、元気に頑張っていることと思います。本誌でも毎号 risk management に関する多くの論文が掲載されますが、半年たって仕事に慣れた頃に医療ミスを起こしがちです。人を育てることは難しく、かの山本五十六元帥も苦勞したようです（やってみて言って聞かせてさせてみて、誉めてやらねば人は動かず）。透析医療を担う新人の教育も今後の大切な課題の1つと思います。

本号も危機管理対策、臨床と研究、実態調査など多岐にわたり、多くの論文が集まりました。総頁数が200頁を超すことはおそらく本誌はじめて以来のことと思います。いずれも充実した論文であり、日常臨床に知っておくべき必要なものばかりであります。すばらしい論文を執筆して下さいました先生方に厚くお礼申し上げます。

また、今年3月に開催された研修セミナー「透析医療における Current Topics 2001」を特集として取り上げ、各講師の先生方に論文としてまとめていただきました。いずれも重要なテーマであり、各分野の興味ある点を専門家が解説されており、一読すべき内容と思います。

5月に日本透析医会定例総会が開催され、任期満了に伴う新役員の改選が行われました。それに基づき各種委員会の委員長および委員の選任も実施され、広報委員会も飯田委員長より私がバトンタッチを受けました。今後も日透医誌のさらなる充実を図りたいと考えております。会員の皆様のご支援をお願い致します。

広報委員会委員長 久保和雄

なお、平澤名誉会長の「会長退任挨拶」を掲載する予定でしたが、平澤先生は、体調をくずされ、今は軽快されましたが原稿の締切日に間に合いませんでしたので、次号に掲載いたしますことを申し添えます。